

謹賀新年



相馬村農業協同組合

代表理事組合長

三上道廣

新年あけましておめでとうございます。
います。

組合員及び地域住民の皆様とともに輝かしい新年を迎えられたことに謹んでご祝詞を申し上げます。

日頃より農協の各事業におきましては、格別なるご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、国内経済は、緩やかな回復の兆しはみられるものの、依然として低迷状態にあり、また、長期金利がマイナスに転じるなど、先行きの景気回復には不透明な面が見られます。

一方、農業を取りまく情勢については、就農人口の減少や生産農家の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加等の諸問題に直面している中、規制改革推進会議で地域JAの信用事業の縮小を迫る

提言を発表し、信用事業を農林中金に譲渡または、代理店化する案が出され波紋を広げました。最終的には問題が取り除かれたとはいえ、自己改革の実践に引き続き取り組んでまいります。

このような中、当JAの主力作物である、りんごについては春先の天候に恵まれ順調に生育したものの、一部園地においては黒星病の発生や、結実や肥大にはらつきが見られ、更に夏場に雨が少なかったことにより果実肥大等に影響が出ました。

また、9月の台風18号による一部落果被害や、樹上損傷被害の発生が見られました。そのような中、当JAの入庫数量は690,008箱（前年対比88%）となり組合員のJAに対するご協力を改めて感謝申し上げます。

また、稲作については特A米「青天の霹靂」を全地区で栽培し、主流通米5,382俵、オール一等米という結果となりました。

これにより稲作農家の所得向上の一助につながると思います。りんごの販売については、早生種のつがる及び早生ふじ系の大玉



は順調に販売されましたが、比較的多い中・小玉果については販売に苦戦が強いられました。また、トキについては台湾・香港からの引き合いが強く小玉果についても概ね販売されました。

年明け以降の販売に期待するわけですが、競合する柑橘類全般に裏年で少ないものの各品種とも小玉傾向で、樹上損傷等下位等級品の発生が多い内容となっております。消費形態は先行き不透明となっております。主力のサンふじを中心にキャンペーン等による消費拡大を図り、高値販売に取り組んでまいります。

また、弘前市の協力を得て冬期間農道の除雪を本年も継続して実施してまいります。

近年、農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中、組合員の期待に応えるとともに、高齢化対策を最優先課題として取り組んでまいります。

本年も大きな災害の無いよう、組合員及び地域住民の皆様が健やかで笑顔に暮せることを願い新年のあいさついたします。



代表理事組合長	三上 道廣
専務理事	大場 勉
理事金融共済部長	花田 敏幸
理事総務委員長	福島 憲一
理事総務委員	田澤 俊則
理事総務委員	溝江 徹
理事りんご委員長	花田 勇人
理事りんご委員	三上 隆基
代表 監事	清野 護
監事	山内 知人
員外 監事	盛 浩一
他職員一同	